

## 世界理解月間にあたって 見つめようロータリーの国際性を!!

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

**泉 博朗**

(大阪帝塚山RC)



1905年2月23日に、ポール・ハリス、ガスターバス・ローア、シルベスター・シール、ハイラム・ショーレーの4名が第一回ロータリー例会を開催いたしました。この日は、ロータリーの創立記念日であり、「世界理解と平和の日」(World Understanding and Peace Day)と呼ばれています。そして国際ロータリー理事会は2月23日に始まる1週間を「世界理解と平和週間」と定め、ロータリーの奉仕活動を強調することを決議しました。さらに2月は「世界理解月間」と定められたのです。

私たちは、国際ロータリーの構成員であります。確かに、クラブは地域をテリトリーとして構成されていますが、ロータリアンであれば、世界各国のロータリークラブに訪問出来、大いに歓迎されます。国際奉仕、青少年交換、元GSE、姉妹クラブ等を通じ世界各国と繋がっているのです。

エンドポリオ活動は、世界のロータリアンが心をつなげて、資金を集め、ポリオの撲滅活動を行っています。すでに、私たちは国際的

活動を行っているのです。ぜひとも、そのことを見つめていただきたいのです。

すでに、私たちは、ロータリアンになると同時に、世界平和活動に参加しているのです。そのことを認識していただきたいのです。言葉は問題ではありません。世界のロータリアンは、心をひとつにして世界平和を目指すことで、すでに繋がっているのです。その繋がりを、より太く、広くしていただく事が、世界をよりよく理解することになるのではないのでしょうか。

ロータリーの組織は分散型の非集権的な組織であります。世界を平和にするという強い思いを、皆様ひとりひとりが感じることによって、結果として大きな流れが生まれるわけがあります。強い指導者より、ロータリアンひとりひとりの強い思いが大事であります。

各クラブが各クラブのやり方で世界を見つめ、ロータリアンひとりひとりの世界平和に対する思いが大きな動きとなり、世界平和を実現するわけがあります。そのことを感じ、あらためて世界平和を考えようではありませんか。